

他流派を学ぶ

## 夢想神傳重信流要点

(重信流が行う大森流)

- 礼 法** ① 鐙を丹田に両手で抱えコジリが体側よりはみ出る事無く、神坐に恭しく立礼。袴を左右に払い、左膝を折り敷いて右膝を着き座し、左手の刀を右手に持ち誓え、体後ろ面に平行して柄頭をみぎに置き、両手で体を支えて三回前へ進み出て**坐礼**。再び元の位置に返り刀を取りて、右膝かしら前方に横たえ**刀礼**。
- ② 鐙を右手人差し指と中指の間に挟んで、右手で鐙が体の正中線に来る様起こし、左手で下げ緒を鐙を持った右親指に捌き、鞘を扱いてコジリを左手にとって臍前から帯刀す。そのときの柄頭は右やや上方  
下げ緒の結束は体中央付近 左手首で鯉口を切れるよう柄上から結束

- 初 発 刀** 抜付前の体重の移動と膝の引き寄せ、柄の位置・抜き付けた切っ先の位置  
抜付けは切るのではなく敵に切っ先を付ける・・・喉等  
**血揮は右掌を顔面中央につけ肘を体側より出さず額上部右から** (以下同じ)
- (近 間)・・・足寄せをし切っ先に攻めを入れ中震に打ち込む  
(中 間)・・・三步足寄せをして横震に振り被り打ち込む  
(遠 間)・・・左足で立ち追い込んで左膝を付いて打ち込む

- 左 刀**
- (中 間)・・・顎をしっかりと左肩に載せ敵を見定める・回転軸膝に抜き付け側の膝寄せ・敵に正対してから抜き出す 振被りは、抜付けの攻めを入れて**縦震**でも**横震**でも良い (以下右刀・當刀・勢中刀等も同じ)

- 右 刀** 左刀に準ず

- 當 刀**
- (近 間)・・・①後向きに座して前の敵に抜付け、後の敵を震に切り振り被って打ち込む  
②

- 陰陽 進退** 抜き出す祭、左膝へ (回転) 重心移動【敵に悟られぬよう】=右膝を左膝に寄せるとき**半拳**前へ

流 刀

(近 間)

(遠 間)

順 刀

刀の位は天 相手に鎧を見せない 開八双 上段に取り 左に戻り打つ  
刀を清めてもらい 右後方へ下がって冥福を祈って礼

逆 刀

とど 止め 左足を一步前へ、後右膝を進める 左腕を右大腿部に載せ巢直に  
刺す・・・ 敵の左首動脈を切っ先峰側で突く  
引切・・・ 敵の右首動脈を切っ先で引いて切る  
横へ立ち上がり切っ先の血を左手親指、人差し指で拭い納刀

勢 中 刀

敵に正対してから、下から上段の敵小指に抜き付け (斬るのではなく傷つ  
けるだけ) 右に払い揚げて打ち込む 坐らない  
①正対して坐す 敵の刃をと刃で受け止めなやし 打ち込む

虎 乱 刀

横一文字に払って振り被り打ち込む

抜 打

(重信流が行う英信流)

横 雲

虎 一 足

稻 妻

浮 雲

山 下 風

岩 浪

鱗 返

岩 浪

瀧 落

抜 打

(重信流奥居合)  =古い伝書による名称

向 払

(霞)

柄 留

(脛 囲) ・ ・ 虎一足

向 詰

(両 詰)

両 詰

(戸 脇)

三 角

(戸 詰)

四 角

(四方切)

棚 下

(棚 下)

虎 走

(虎 走)

人 中

(袖摺返)・・(壁添)

行 連

(行 連)

連 達

(連 立)

行 違

(行 違)

夜之 太刀

(信 夫)

追 掛 切

(な し)

五 方 切

(惣 捲)

放 打

(総 留)

虎 走

(な し)

抜 打

(な し)

弛 抜

(な し)

**両士 引連**

(な し)

**賢 之 事**

(袖摺返) ?

**クク り捨**

(な し)

**軍場之大事**